

東京近郊農村における 下肥利用とトイレの改良

堀 充宏氏 葛飾区郷土と天文の博物館 学芸員

日時：2021年3月24日(水)17:00～19:00

会場：Zoomミーティング 【開場：16:45】

申込方法：3月22日(月)12:00までに、ご氏名とご所属を明記し、jomin-kenkyukai@kanagawa-u.ac.jpまでメールをお送りください。追って参加ID/PWを送信いたします。

東京近郊農村における下肥利用とトイレの改良

わが国では人糞尿を肥料として使うこと（下肥）が少なくとも鎌倉時代には確立していた。

とくに近世の大都市江戸の近郊農村では、17世紀には武家屋敷や町家から排出される人糞尿を下肥として使用しており、現在の葛飾区・江戸川区など江戸（東京）東郊地域では川を利用した舟運による下肥の搬送が行われており、大量の下肥が年間を通じて使われた。

下肥を利用することを前提とした時代のトイレはそれぞれの地域の環境や農法に応じて形状や場所が決められていた。近代にはいると次第に衛生や快適といった概念でトイレが変わっていく。本発表は下肥利用の推移とともに変わっていくトイレの設計思想と機能の変化について考察したものである。